

総合問題

(総合問題 1)

次の事例を読んで、問題 109 から問題 111 までについて答えなさい。

〔事例〕

Jさん(36歳, 男性)は, 6歳の時, 大学病院で精神(発達)遅滞の判定を受け, 療育手帳(重度)が交付された。

両親はJさんに必要以上の世話をし, 衣服の着脱も介助していた。しかし, 両親が高齢になり家庭でJさんの介護が困難になったため, 1週間前にJさんは障害者支援施設に入所した。言葉によるコミュニケーションは簡単な単語の理解ができる程度であり, 生活全般に指示や見守りが必要である。たばこの吸殻を食べてしまう行為がみられ, 吸殻を探して施設の近所まで出歩くなどの行動もみられた。対人関係をうまく築けないようで, なれない人たちの中に入ると, 上肢を噛むなどの自傷行為が現れることも分かってきた。

問題 109 入所当日, Jさんが初めて衣服を着替える時に, 介護職が行う支援として, 最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 Jさんが自分でできるまで待つ。
- 2 衣服の前後・表裏に印をつける。
- 3 Jさんの着る順番に衣服を並べておく。
- 4 Jさんが着てから, 間違いを訂正する。
- 5 Jさんが着られなくなると, そのたびに支援をする。

問題 110 日中にJさんが利用しているサービスとして、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 同行援護
- 2 生活介護
- 3 療養介護
- 4 居宅介護
- 5 短期入所

問題 111 Jさんは、日中は空き缶つぶしなどの軽作業をしている。介護職が時間ごとに次の行動を支援すると、大きな混乱もなくできるようになり、施設での生活リズムが少しずつ身についてきた。そこで、介護職はJさんが他者と円滑な関係を作れるような支援を提案した。

この提案した内容として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 出歩かないように、活動範囲は居室に限定する。
- 2 少人数のレクリエーションを行う。
- 3 多くの入所者と共同作業を行う。
- 4 自傷行為がみられた場合、向精神薬の服用を検討する。
- 5 複雑な作業課題を日中活動として行う。

(総合問題 2)

次の事例を読んで、問題 112 から問題 114 までについて答えなさい。

[事 例]

Kさん(65歳)は、夫(70歳)と二人暮らしをしていた。Kさんは骨粗鬆症こつそしょうしゅう(osteoporosis)と診断を受けていたが、最近、約束していたことを忘れるなどの記憶力の低下や人格の変化がみられるようになり、前頭側頭型認知症(frontotemporal dementia)と診断され、要介護認定で要介護3となった。

夫は体調を崩して、近所の病院に入院することになった。夫が介護支援専門員(ケアマネジャー)に相談して、Kさんは、夫の入院する病院に併設されている施設に入所した。この施設は、看護、医学的管理の下に介護や機能訓練などを実施している。

Kさんは施設入所後、介護職の問いかけに返事をしなかったり、急に服を脱ぎだすなどの行動を繰り返した。日常生活では、すべての動作に見守りと声かけが必要な状態であった。

問題 112 Kさんが入所した施設として、次の中から正しいものを1つ選びなさい。

- 1 小規模多機能型居宅介護
- 2 介護老人福祉施設
- 3 認知症対応型共同生活介護
- 4 介護老人保健施設
- 5 救護施設

問題 113 Kさんが自室で急に服を脱ぎだしたときの介護職の対応として、次の記述の中から最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 服を脱いでいる行動を止める。
- 2 服を脱がないように説得する。
- 3 服を脱ぐのは、恥ずかしいことだと伝える。
- 4 落ち着くまで見守る。
- 5 服を脱いでいる行動を無視する。

問題 114 夫は体調が回復して退院した。その2日後、夫は施設を訪ねた。夫とKさんが廊下を歩いていると、Kさんは急にバランスを崩し、尻もちをついて転倒した。その時、手はつかなかった。

Kさんの状況から、最も骨折(fracture)しやすい部位として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 橈骨とうこつ
- 2 鎖骨
- 3 上腕骨
- 4 脊椎せきつい
- 5 肩甲骨

(総合問題 3)

次の事例を読んで、問題 115 から問題 117 までについて答えなさい。

〔事例〕

Lさん(80歳)は、妻(75歳)と二人暮らしである。半年前に脳梗塞(cerebral infarction)を起こし、左片麻痺が残った。時間をかければ、着脱や洗面など、身の回りのことができる。現在、要介護1で、週1回訪問介護(ホームヘルプサービス)を受けている。妻は、70歳ころから軽い心不全(heart failure)が繰り返し起きるため、屋内での生活が中心となっている。

Lさんは、自分でできることは自分でやりたいと思っているが、妻は夫の世話は自分の役割と思って、Lさんが自分でできることでも世話をしてしまう。

Lさんはお風呂が好きで、脳梗塞(cerebral infarction)を起こす前は、毎日、湯船につかっていた。しかし、自宅の浴槽の縁が浴室の床から高く、妻の介助では、湯船につかることができないために、退院後はシャワーを使用していた。Lさんは「在宅生活を続けながら、週1回でも湯船につかりたい」と訪問介護員(ホームヘルパー)に話している。

問題 115 Lさんが起き上がって自分で上着を着ようとしていると、妻が介助して着せた。

それを見た訪問介護員(ホームヘルパー)の妻への対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 「Lさんはできますよ、次から本人に任せてみましょう」
- 2 「次からは、私がやりましょう」
- 3 「Lさんに楽をさせないようにしましょう」
- 4 「これからも服を着せてあげましょう」
- 5 「まず、ご自分のことを心配しましょう」

問題 116 妻は、訪問介護員(ホームヘルパー)に「おとといの朝、夫が咳せきをしていたので病院に行き診察を受けましたが、医師から、熱もないし検査結果も心配はないと言われました。念のためベッドに寝かせていますが、自分で寝返りはしていません」と話した。

がしょう
臥床を続けた場合に、最初に現れると予測される身体の状態として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 嚥下障害えんげしょうがい
- 2 寝たきり状態
- 3 筋力低下
- 4 心不全(heart failure)
- 5 褥瘡じょくそう

問題 117 Lさんの「在宅生活を続けながら、週1回でも湯船につかりたい」という希望をかなえるための介護保険のサービスとして、次の中から最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 訪問リハビリテーション
- 2 居宅療養管理指導
- 3 訪問看護
- 4 特定施設入居者生活介護
- 5 通所介護

(総合問題 4)

次の事例を読んで、問題 118 から問題 120 までについて答えなさい。

〔事 例〕

M 君(8 歳, 男性)はデュシェンヌ型筋ジストロフィー(Duchenne muscular dystrophy)と診断され, 地元の小学校に通学している。保育所時代の友達も多く, 学校生活でも様々な手助けをしてくれている。

母親は働いていて, 小学校の授業が終わる時間に M 君を迎えに行くことができない。そこで, 放課後等デイサービスを利用しているが, 母親は友人から, 「学童保育には年齢制限があったけど, M 君の利用している放課後等デイサービスは大丈夫なの」と言われた。母親はサービスを利用する際に説明を受けた気もするが, 記憶が確かではなく心配になってきた。

最近, M 君は歩行が不安定になってきており, 母親は, M 君が車いすを使用する時期になってきたのではないのかと感じている。身体的な機能を考えると, できるだけ歩かせたいと思う一方, 歩行を重視すれば, 行動範囲が狭くなり, M 君の世界を広げることができなくなるかもしれないと考えている。筋力低下が A D L (Activities of Daily Living : 日常生活動作) に深刻な影響を及ぼし始めている現状を, M 君のガイドヘルパーをしている Y 介護職に, 母親はときどき相談をしている。

問題 118 母親は Y 介護職に, 「息子の利用している放課後等デイサービスは, 通常はいつまで利用できるのか」と尋ねた。

Y 介護職の回答として, 正しいものを 1 つ選びなさい。

- 1 小学校 3 年生まで
- 2 小学校卒業まで
- 3 中学校卒業まで
- 4 高等学校卒業まで
- 5 大学卒業まで

問題 119 M君のようなデュシェンヌ型筋ジストロフィー(Duchenne muscular dystrophy)の人が、車いすを使用するようになっても最後まで自立できるADL(Activities of Daily Living：日常生活動作)として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 食事動作
- 2 入浴動作
- 3 排泄動作
はいせつどうさ
- 4 更衣動作
- 5 移乗動作

問題 120 M君はやがて歩けなくなることが予想される。Y介護職は母親から「筋力をできるだけ保ちながら、今の活動範囲を維持するためには、今後どうしたらよいのでしょうか」と助言を求められた。

Y介護職の提案として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 自走式普通型車いすと電動普通型車いす2台の使い分け
- 2 自走式普通型車いすの利用
- 3 手押し型車いすの利用
- 4 電動普通型車いすの利用
- 5 歩行の継続